

東北大学・アラスカ大学学術交流15周年記念

アラスカ大学フェアバンクス親善コンサート

～University of Alaska Fairbanks Friendship Concert～

2010年5月23日（日）

14:30～16:00（開場 14:10）

東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

(<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/hagihall/>)

入 場 無 料



主催：ピーターソン木村悦子（Etsuko Kimura Pederson）

共催：東北大学大学院文学研究科

後援：Made possible with support from: University of Alaska Office of President, The Associated Students of the University of Alaska Fairbanks (ASUAF), and British Petroleum-Conoco-Phillips Scholarship Fund

協力：In association with the University of Alaska Graduate Office, The Office of International Programs, and The College of Liberal Arts. 東北大学大学院文学研究科文化人類学研究室

<問い合わせ先>

東北大学大学院文学研究科 文化人類学研究室

tel & fax: 022-795-3728 email: tohoku-anthropo@sal.tohoku.ac.jp

イベントの概要

東北大学とアラスカ大学の学術交流がはじまり今年で15年目となります。このたび両校のパートナーシップをさらに深めるため、アラスカ大学フェアバンクス校で学ぶ二人のピアニストが杜の都を訪れることになりました。

すべての演奏曲は仙台出身で現在アラスカ州フェアバンクス市在住のピーターソン木村悦子によるオリジナル現代ピアノ曲です。木村のまなざしから生まれたアラスカの現代ピアノ音楽が川内萩ホールに響きます。

またアラスカ大学フェアバンクス校の紹介スライドショーも行います。

プログラム

オリジナル現代ピアノ曲（作曲 ピーターソン木村悦子）

演奏曲

○Five Worlds

北アメリカ大陸の西はじに静かに位置するアラスカ。そこで暮らす人びとはテレビの映像から世界の動きを知る。本作はテレビ画面が映し出す対照的な光景を表現した曲である。

○Hidden Nature

木村がアラスカで生活する中で気づいた、それまで気にとめなかった「世界」をピアノで表現した曲である。

○East and West

東洋で生まれ、西洋で音楽を学んだ木村が、双方の音楽を2台のピアノで表現した曲である。

○A Shadow of Mind

不協和音を多用することで、人それぞれの複雑な心の中を表現した曲である。

○Reality and Dream

現実と夢の世界を交互に表現した曲である。クラシックの部分フレーズが組み込んである（We Are All One 2009 収録）。

○Segment of Six

アラスカの生活はシンプルであるが、利便性に欠けている。そのため人びとは限られた選択肢の中で工夫しながら生活を営んでいるが、だからこそ新しい何かが生まれることもある。本作はこうした木村の経験を下地として、6つの音だけを組み合わせた曲である。

アラスカ大学フェアバンクス校の紹介

アラスカ大学フェアバンクス校について写真を織り交ぜながら紹介します。

演奏曲目について

すべての演奏曲は木村の手によるもの。楽曲の大部分はアラスカでの木村の日常的な経験から生まれたものである。彼女の手がけた楽曲は、拍子やテンポが変化する自由奔放なスタイルと独特なハーモニーを特徴とする。

私の曲は、クラシックとはまったく違い、不協和音や全音階また、色々なハーモニーが組み合わさり、皆さんが聴いたことのないような曲だと思います。

ピーターソン木村悦子

演奏者プロフィール

ピーターソン木村悦子

Pederson Kimura Etsuko



仙台市出身。現在アラスカ州フェアバンクス市に在住。アラスカ大学音楽学部修士号（演奏）取得。修士号取得後も音楽部に所属し、ピアニスト、ならびに現代音楽の作曲家として活動している。アラスカ大学のジャズバンドでも長年ピアノを担当している。

音楽活動を精力的に展開する一方で、地元ラジオ局のジャズ番組のDJ担当、東北放送ラジオ番組への定期的な出演、アラスカ大学のロケットプロジェクトに長年参加するなど、アラスカ州と宮城県の双方で多方面にわたり精力的に活動している。

ポール・クレイチ

Paul Krejci



アラスカ州フェアバンクス市在住。アラスカ大学音楽学部修士号（演奏）取得。音楽部の専属伴奏者を経て、現在は音楽学と人類学を融合した独自の視点から、アラスカ先住民音楽についての研究活動を展開している。

またアラスカ大学非常勤講師として、先住民音楽やポピュラー音楽の授業を担当している。さらに先住民音楽についての高齢者向けセミナーの講師や各種音楽イベントでのピアノ奏者を務めている。

かつて大阪の英語学校で講師を務めていた経歴の持ち主でもある。

アラスカ大学フェアバンクス校 (UAF)

前身は 1922 年設立のアラスカ農業鉱業大学 (The Alaska Agricultural College and School of Mines)。1935 年にアラスカ大学へと改称。国際極北研究センター (International Arctic Research Center)、地球物理学研究所 (Geophysical Institute)、アラスカ先住民言語センター (Alaska Native Language Center)、アラスカ大学博物館をはじめとする国際的にも評価の高い研究教育機関を併設する。

大学のマスコットキャラクターは、シロクマのナヌーク (Nanook)。ナヌークは、アラスカ北部の先住民イヌピアックの言葉でシロクマを意味するナヌック (*nanuq*) に由来する。

会場へのアクセス

東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

〒980-8576 仙台市青葉区川内 40

- [バス] ■仙台駅前9番のりばより「宮教大・青葉台行」または「青葉通經由動物公園循環」に乗り、「東北大学川内キャンパス・萩ホール前」で下車 (乗車時間約15分) 徒歩3分
- [タクシー] ■仙台駅から約10分、仙台空港から約40分
- [徒歩] ■地下鉄広瀬通駅から約25分

※ 所要時間は交通状況により異なります。

※ 駐車場には限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

関連企画

第134回 東北人類学談話会

日時：2010年5月21日(金) 午後6時から午後8時

場所：東北大学文学部3階 311講義室

発表者：Paul Krejci (University of Alaska Fairbanks)

演題：Musical Interaction and Globalization in the Western Arctic, Late 18th through Early 20th Centuries

問い合わせ先：東北大学文学部 文化人類学研究室

022-795-3728 / tohoku-anthropo@sal.tohoku.ac.jp